

様式(細則 5-2)

令和6年4月19日

浜田市議会議長 笹田 卓 様

議員名 芦谷 英夫

調査研究活動報告書

下記のとおり調査研究のため(視察(研修))を(実施(受講))したので、その結果を報告します。

記

- 1、日 時 令和6年4月7日(日) 13時30分～15時30分
- 2、研修内容 「山城が語る時代とは」八雲立つ風土記の丘所長 高屋茂男
- 3、研修先 益田市(グラントワ)
- 4、調査経費 交通費(ガソリン代) 1,780円
- 5、調査研究活動の概要 別紙のとおり



講演会「山城が語る時代とは」

令和6年4月19日

- 1 日 時 令和6年4月7日（日）13時30分～15時30分
- 2 場 所 益田市（グラントワ）
- 3 演 題 「山城が語る時代とは」八雲立つ風土記の丘所長 高屋 茂男
- 4 概 要

- ① この講演は、第31回全国山城サミットが令和6年11月16日～17日益田市で開催されることから、サミット開催で歴史的な山城を守り、観光資源として活用するための知識やアイデアを共有し、地域の魅力を高める機会とすることを目的としておりこの前段として開催された。
- ② 中国地方は、尼子氏、毛利氏、大内氏など戦国大名の狭間に置かれ石見地方は、国府の国司御神本氏が益田荘に移り益田氏を名乗り、総領家から分家した庶子家の三隅氏、周布氏、福屋氏などの有力領主によりこの地方を治める時代が続いた。
- ③ 石見地方には、砦を含め497の山城があるとされ、講演ではうち18の山城を紹介し説明されたが、浜田市分では、三隅高城、鳶巣城（周布町）、井野城（井野）、加古屋城（今市）、本明城（入野境い）などについての説明があった。
- ④ 資料によるとそのほか浜田市分では、内田要害山城（内田町）、波佐一本松城、千穂山城（小坂）、矢懸城（永安城、長安本郷）、矢川城（大坪）などが紹介されるなど、石見地方の中世の城郭の中核に位置付けられる。

5 所 感

- ① このたびの山城サミットについて、益田市は中世益田氏をテーマにまちづくりを進めるとしている。全国山城サミット連絡協議会には、108の自治体と172の山城が加盟しており、島根県内では益田市（七尾城）のほか、安来市（月山富田城）、江津市（本明城）、雲南市（三刀屋城）、奥出雲町（三沢城）のみであり、浜田市は未加入でありそれらの経緯に疑問が残る。
- ② 益田氏総領家を中心として、その庶子家三隅氏、福屋氏、周布氏などの山城は三隅高城を除き、歴史資源として活用されていないが、このたびの山城サミットを機会として、浜田市としても歴史文化や地域活性化にいかす努力が必要である。
- ③ 浜田市では、三隅氏は1229年にできたとされていたが、鎌倉幕府から領地を安堵されたのが1223年とする文書が萩博物館で発見されたことから、令和5年（2023年）に三隅氏発祥800年の会が設立され様々な関連事業が行われた。
- ④ 市では令和元年（2019年）に浜田開府400年事業を実施したが、その後の取り組みはほとんどなく、浜田藩の時代、中世国人領主の時代、石見国府の時代と歴史文化に彩られた市であり、市の矜持としてこのことを打ち出した市政づくりが必要である。
- ⑤ 市では、石見神楽伝承内容検討会を設置し検討され、石見神楽伝承施設の整備、浜田郷土資料館の建替え整備などの方針を掲げているが、市民全体の理解を得るなど取り組みが必要となっている。
- ⑥ 市では歴史専門学芸員の退職が相次いでおり、この分野での研究や行政推進の体制が手薄となっており、歴史文化を市政推進の柱に据えるために体制の確立が必要となっている。